

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4471100406		
法人名	医療法人 悠隆会		
事業所名	グループホーム「たんぼぼの家」(A棟)		
所在地	大分県宇佐市大字樋田45番地1		
自己評価作成日	平成21年11月20日	評価結果市町村受理日	平成22年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ap.oita-kaigo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4471100406&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成21年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

清潔感あふれる明るい雰囲気の中のホーム内、職員と利用者の楽しい笑い声が聞こえてきます、音楽のリズムに合わせて、楽しそうに足を動かしています。また、「ズンドコ体操」では、全身のストレッチをしています。トランプやかかるたをしたり、レクリエーションも利用者の状態に合わせて、さまざまなことに取り組んでいます。地域に顔なじみになれるように、催し物には積極的に参加し、また、ホームに気軽に遊びに来れる関係、開かれたホームを目指しています。利用者やゆつくりゆったりと過ごす時間を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・宇佐市の中心地に立地しており、家族や知人が訪問しやすい場所である。ちょっと寄ってみたという様子の訪問者が訪ねてくる。
- ・グループホームは2階にあり、エレベーターがないので、身体の不自由な人は外出の機会が減っている。しかし、退屈しないような工夫を行っており、レクリエーションで身体を動かす体操などを取り入れている。
- ・地域に開かれたグループホームを目指し、地域の行事や清掃活動に職員は積極的に参加している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	勉強会で、地域密着型としての、理念を職員で作り、意識づけをするために、毎朝ミーティングで、暗唱して、ケアに反映させている	職員と一緒に理念を検討し、現在の理念をつくりあげた。地域に貢献するという意識を常に持って日々の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域活動の情報集めが少なかった為、地域とのふれあう機会も少なかった。民生委員の変更などもあり、とまどった。保育園、子供会に積極的に声かけをしていきたい	草刈りや溝掃除などの地域の行事には職員が参加して交流を深めている。また、事業所が開催した夏祭りは子供会や老人会など多くの参加があった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生や研修の受け入れは積極的に行っている。老人会の集まりに参加して、認知症についてのお話をしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの取り組み内容については、報告しているが、評価結果は報告だけにとどまっていることが多い。意見ができるように会議の工夫をしていきたい	2か月に1度開催し、幅広い立場の人が参加している。評価結果についての報告も行われ、改善に向けての話し合いが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談や助言は必要時応じてもらっているが、必要以外には、消極的である。たんぼぼ通信を届けるようにして関係づくりの構築を深めていきたい	相談、報告は電話で済ますことなく、必ず市に出向いて顔を合わせている。「たんぼぼ通信」を届けたり、さまざまな機会を利用して市の協力を依頼している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、勉強会で繰り返しおこなっている。施錠についての考え方が賛否両論あり、基本的には施錠はしない方針なので、「しないこと」の方向で話し合いを、繰り返しおこなっていききたい。	月に1回の勉強会で、身体拘束の意味について話し合いを行っている。基本的には施錠はしない方針であるが、外に出たがる利用者があり、入浴時間など、職員の手が足りない時に施錠をする時間帯もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束虐待委員を選任して、勉強会でも繰り返し行っているため、職員間で周知し、防止に努めている		

事業者名:グループホーム「たんぽぽの家」(A棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会でもとりあげ、安心サポートを紹介したり、成年後見制度について、学んでいたこともあり、利用者の家族に紹介することができた		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用料の値上げや医療連携体制加算時、家族会議を開催し十分な説明を行っている。個別に相談があれば応じる体制をとっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時、家族の方に、利用者の暮らしぶりなどをお話したり、遠方の人には手紙で様子を報告した、要望、苦情、意見などはアンケートを行い、結果を報告して運営に活かしている	支払いは振込にせず、月に1度は来てもらうようにして、その際にお茶を出して話をし、意見を聞いている。また、無記名のアンケートを実施し、答えやすい工夫をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会やカンファレンスの中で、意見を聞いたり、聞き出したりして、運営に取り入れている	日常的な会話から職員の意見を聞き、勉強会やカンファレンスで取り上げて検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の努力や実績、給与水準、資格取得に向けた支援を行っている。仕事のやりがいももてるような工夫をしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1人ひとりの能力に応じて(パートも含む)研修を積極的に受講している。研修報告は勉強会で発表し共有する、勉強会記録は職員全体で閲覧している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大分県グループホームに加入し、案内の研修がきたら積極的に受講するようにしている。同業者との交流については勉強会を行う予定であったが、お互いの日程があわず、延期となる		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族に面談しニーズの把握、本人の気持ちを上手に傾聴し安心していただけるように努めている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族から、入居に至る経緯、自宅での生活状況など、時間をかけて傾聴し、安心してもらったうえで、次のステップへとつなげていくようにしている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームにきていただいて、見学したりしてすごしていただく。「困っていることは何か」「不安なことは何か」など見極めをして、医療の必要性があれば対応できるように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と協働しながら、毎日の生活に取り組んでいる。団子汁が食べたいといえば団子をこねたり、餃子をつつんだり、できることは一緒に行い、年の功で、多方面にわたって教えられることが多い			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の気づきなど、家族にお話している。遠方の方には手紙に写真を入れ送付、また、家族に電話をしたり、面会時には家族と利用者が話す場面づくりを行っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	字をかける利用者は友人、家族、知人に書いて送ったりする。ホームに足をはこんでくださる方のほうがおおくなった	墓参りや外泊を家族にお願いしている。友人、知人に遊びに来てもらえるよう、利用者自身が手紙を書くことの支援をしている。知人が来て、利用者の行きつけの美容院と一緒にいたりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で会話をしたり、トランプ遊びやかかるたとりをしたり、お膳を拭く人、お茶碗を拭いてくれる人、職員も関わりながら、助け合う姿がみうけられます。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ移動の場合、情報提供し、家族から相談があったときは応じている。できるだけ面会にいくようにはしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉がしづらい思いがある時は、表情、しぐさ、行動などで確認しているが、意思疎通が困難な方については、家族などから情報を得るようにしている	言葉で言い表せない利用者も多いが、本人の表情やしぐさを観察して理解している。また共有できるよう職員間で話し合っ、ケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	関わりの中で、本人から情報を聞くこともある。独居生活で子供がいない方については、情報収集に苦慮することがある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「できること」「できないこと」の見極めをし、支援を行っている。1人ひとりの生活パターンを把握し、安心、安全にすごしていただけるように支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族にも意見を聞いた上で、カンファレンスを行い、モニタリングも定期的に行い、状況変化があれば、その都度ケアプラン作成をおこなっている	カンファレンスを行い、定期的に介護計画の見直しを行っている。状況に変化があればその都度、ケアプランの作成を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の日々の記録は書いているが、気づきなどについては、全職員で共有するため、話し合いをしながら実践に繋げている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助は、家族の状況にあわせて対応。筋力低下、歩行状態により、訪問マッサージを受けている利用者もいる		

事業者名:グループホーム「たんぼぼの家」(A棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れは積極的におこなっている。地域の催し物に出かけていく。民生委員 老人会の会長と協働しながら、もっと、地域資源を活用していきたい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間365日医療連携の体制は確立している。家族の同意を得ており、協働の確保はできている。週1回の訪問診療があり、早期発見に努め、対応している	本人および家族の希望があれば、従来からのかかりつけ医の受診を支援している。週に1回、協力医の往診があり、病気の早期発見に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の確保し、看護師との協働、連携は保たれている。早期発見に努め相談報告は密にして、適切な対応に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、常時見舞い、病院と情報交換を行いながら、家族と協働し、早期に退院ができるように取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については、勉強会で繰り返し話し合い、家族による同意書、看取りの指針についても説明をして確認をおこなっている。医療連携との話し合いを積み重ねて問題をクリアできるように取り組んでいきたい。	まだ看取りの経験はないが、重度化や終末期に向けて積極的に取り組んでいく準備を行っている。入居時に家族へ説明し、その後も状態に応じて家族との話し合いに応じている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変後、職員と実践力を身につけるため、勉強会でくりかえし学んでいる。消防署による蘇生法も学んだ		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防火訓練実施、風水害のマニュアル作成し、持ち出しの備品 備蓄の確保、保管場所の徹底など把握ができている	年2回の消防署立ち会いの防火訓練では、利用者も参加して行っている。スプリンクラーも来年には設置の予定である。利用者には本人の連絡先などを明記した名札を用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「～さん」と呼ぶように徹底している。プライバシーについては、勉強会でも行い、日頃から言葉かけ、誘導の声かけについては、人格を尊重するような対応に努めている	プライバシーの尊重については勉強会を行い、日頃の声かけについても、人生の先輩として尊敬の念を持つようお互いが注意している。「～さん」と呼び、なれ合いの言葉にならないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事が楽しみの一つなので、一人ひとりアンケートを行った(聞き取り)12月よりメニューの変更をする。衣類については、何枚か出してみよう選んでいただくこともあるが、気に入った衣服しか着ようとしなかつたもいる		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起きたくない時はゆっくり起きていただき、食べたいときに食べていただき、その日の利用者のペースにあわせて、ゆっくり、ゆったりとすごしていただく		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	夏祭りは、浴衣を着て化粧をして、髪飾りをするとうれしそうでした。服装が、ちぐはぐなときは、さりげなく声かけをします。。髪のカットをすると、うれしそうに鏡を見ている方もいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使って工夫している。好みも把握している。職員もホールで食事、ときには職員の卵焼きをもらったりしてにぎやかな雰囲気であるその後、一緒に片付のお手伝いをしている。	季節の食材を使い、おいしい食事が提供できるように工夫している。一人ひとりの好みや食事形態に合わせて調理し、食事が楽しみなものになるように、職員も一緒にテーブルを囲んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分量のチェックを行い把握している。一人ひとりの状態に合わせて、食事形態の工夫をし食べていただいている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人ひとりに合った口腔ケアを行っている。歯のない方についてはうがいを行い、口腔内のチェック観察をおこなっている		

事業者名:グループホーム「たんぼぼの家」(A棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄の習慣をつけるため、尿意のない方についても排泄パターンの把握をして、トイレに誘導する。リハビリパンツを着用していても、失禁がみられない方もいる	排泄の自立を目指し、排泄パターン表によってトイレ誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部マッサージをしたり、水分、牛乳、ヨーグルトも類などとしていただき、また、運動の働きかけをしたり、食材などの工夫も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	A棟(月、木)B棟(火、金)土曜日は希望日とし、週5日設定しているので好きな曜日に入浴することができる。寝る前の入浴については、人員の問題、安全面について話し合いながら、検討していきたい。	原則、週3回の入浴としているが、2つのユニットの入浴日を別々にして、希望があれば入浴日でなくても他ユニットのお風呂に入れる。入りたがらない人には声かけによって入浴を促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動することで睡眠に繋げている。眠れないかたについては、職員がそばで寄り添いお茶を飲んだりして、睡眠に入るまで一緒に過ごしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容、効能、副作用については個人ファイルで保管、周知している。服薬確認も担当をきめ確認して、チェックをするようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にできる軽作業はしていただき感謝の言葉は必ずするようにしている。利用者に行きたい所ややりたい事など聞きながら、気分転換を図るようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩行困難な方には、車いすを利用し、コスモス畑に出かけた。地域の人の畑に、野菜とりや、柿ちぎりにも出かけた。帰りたい希望があれば、家族に協力をお願いすることもある。	グループホームは2階にあり、エレベーターがないので車椅子の人は外出が困難だが、季節の花見などの時には職員が抱えるなど、出来るだけ外出ができるよう支援を行っている。	

事業者名:グループホーム「たんぽぽの家」(A棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭については、家族の意向もあり、預かってもらえない利用者もいる。保管は職員室、家族の報告はしている。少額でも、もってもらえるように家族と相談しようと考えている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状をだしたり、やりとりまではいかないがハガキを書いて楽しんでいる。家族のことを心配されて方には、電話をかけるようにしている。とても安心される		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや音楽の音量には配慮している。フロアの壁面には外出でない方には、季節感をだすため飾りつけの工夫をしている。利用者共同作業の作品を飾っている	季節を感じさせる飾り付けを心掛けて、職員と一緒に楽しみながら作品を作っている。採光に配慮し、テレビの音量などは、うるさくないようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの位置を移動して、視界をさえぎる工夫をする。夏はござを敷き、冬のこたつについても、さまざまな意見があったので、話し合いをしながら取り組んでいきたい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物をもってきていただくように依頼するのですが、家族の意向もあるようですので、職員がその人らしく居室づくりに取り組んでいる。	利用者が落ち着いて過ごせるよう、使い慣れた手回り品や、家族の写真などを飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	視力低下の利用者は居室の入口に折り鶴をぶら下げ自分の居室がわかるようにしている。ドアの横には名前、飾りものをつけている。ホールには転倒物を置かないようにして、安全にすごしていただくようにしている。		